

シロイチモジヨトウの発生が多くなっています！ 圃場を観察し、集団で生息する若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。

シロイチモジヨトウは、ネギの主要害虫で、ネギが本種に食害されると、虫糞が葉身内の底部に堆積するため、商品価値が損なわれます。圃場をよく観察し、葉身内に食入する前の集団の若齢幼虫のうちに防除を行いましょう。

また、ネギ以外に、キャベツ、ハクサイ、レタス等の野菜類や豆類、花き類も加害する広食性の害虫であるため、広く注意が必要です。

[現在の状況]

- ① 7月第5半旬までのフェロモントラップ（つくば市）の総誘殺数（本年値 194 頭、平年値 10 頭）は、平年より多い（図）。
- ② 7月下旬現在、夏ネギの圃場で発生を認めている。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

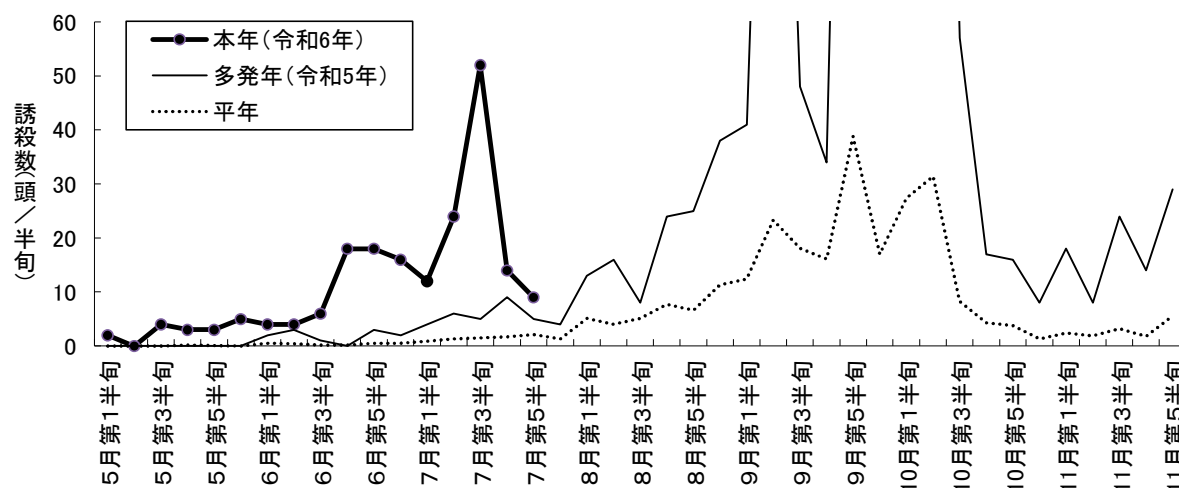


図 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの発消長（つくば市）

[シロイチモジヨトウの生態と特徴]

ネギでは、卵は葉身部の中央から先端部に数十粒の卵塊で産卵され、孵化した幼虫はしばらく集団で生息した後、葉身内に食入し、中から表皮を残して葉肉を食害する。

若齢幼虫は黄緑色であるが、中齢以降の体色は変異に富み、淡緑色から黒褐色まで様々である。老齢幼虫の体長は約 30mm で、胴部側面に明瞭な白線があることが本種の特徴である。成虫の体長は 10～15mm、開張は 25～30mm であり、前翅中央部に円形の斑紋がある。

[防除対策]

- ① 中齢以降になると薬剤の防除効果が劣るので、圃場をよく観察し、集団で生息する若齢幼虫の早期発見に努め、防除を徹底する。
- ② 結球葉菜類では、幼虫が結球内に食入するとその後の防除が困難になるため、結球始期前後の防除を徹底する。
- ③ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。また、複数回散布する場合は、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 令和4年度に主要薬剤の殺虫効果について試験を行ったので参考にする。

(令和5年2月24日発表 病害虫発生予報3月号 p3-4 防除所レポート参照)

表 シロイチモジヨトウに登録のある主な薬剤

(令和6年7月24日現在)

薬剤名	作物名					IRAC コード※
	ネギ	キャベツ	ハクサイ	レタス	ダイズ	
トレボン乳剤	○					3A
ディアナSC	○					5
アニキ乳剤	○	○		○		6
コテツフロアブル	○	○				13
トルネードエースDF	○	○	○	○		22A
ベネビアOD	○	○	○	○		28
ベリマークSC	○	○	○	○		
ヨーバルフロアブル	○	○	○			
グレーシア乳剤	○	○	○	○		30
ブロフレアSC	○	○	○	○		
プレオフロアブル	○	○		○	○	UN

○：当該作物に農薬登録あり、ただし、各薬剤の収穫前日数には十分に注意する。

※ 殺虫剤耐性対策委員会(IRAC)により、殺虫剤の有効成分を作用機構により分類し、コード化したもの。

[注意事項]

- ・作物によって、登録のある農薬が異なるので、農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載されている使用基準や、注意事項を必ず確認のうえ使用する。



写真1
卵塊から孵化した若齢幼虫



写真2
ネギの内部を食害する中齢幼虫



写真3
幼虫によるネギの被害葉